



9月21-27日

3 ニーファイ12-16章

どうすれば 地の塩になれるでしょうか

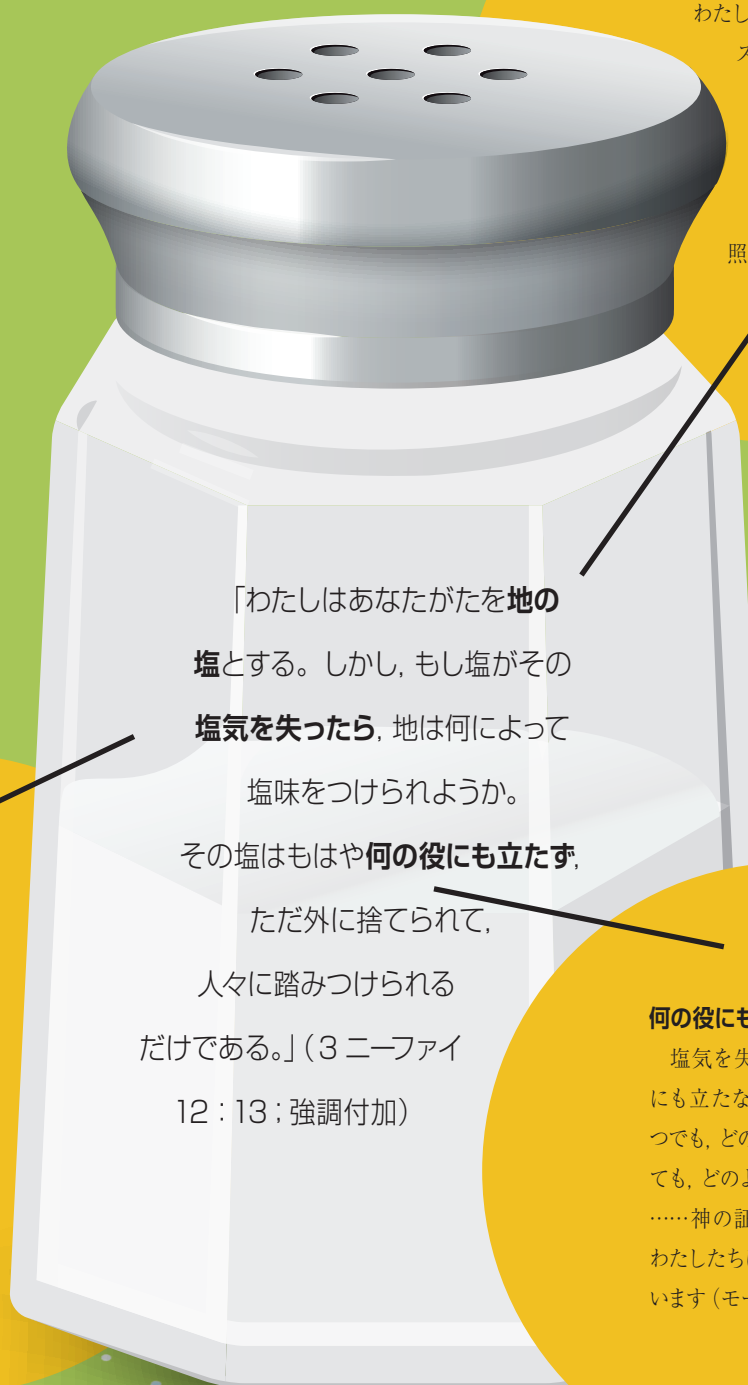
モーセの律法の下では、肉をささげ物として用いる前に塩で味をつける必要がありました（欽定訳〔英語〕レビ2:13 参照）。肉をささげ物として準備するために塩が使われたように、わたしたちが「地の塩」となることで、主のために世界を備えることができます（3 ニーファイ12:13）。

「わたしたちは『地の塩』であると同時に『世の光』でもあり、その光を隠してはならないのです（マタイ5:13-16 参照）。」

大管長会第一顧問 ダリン・H・オークス管長「悔い改め、変わる」「リアホナ」2003年11月号, 40

地の塩:

わたしたちはイエス・キリストと聖約を交わすとき、主の再臨に向けて世界を備えると約束します（教義と聖約34:5-7 参照）。



「わたしはあなたがたを**地の塩**とする。しかし、もし塩がその**塩気を失ったら**、地は何によって塩味をつけられようか。その塩はもはや**何の役にも立たず**、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。」（3 ニーファイ12:13; 強調付加）

塩気を失う:

わたしたちは「世の光」となり、人々がキリストのもとに来るのを助けなければなりません。それを怠るならば、わたしたちは「塩気を失った塩のよう」になるかもしれません（教義と聖約103:9-10）。

何の役にも立たない:

塩気を失った塩は何の役にも立たなくなります。「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人になる」とき、わたしたちは地の塩となっています（モーサヤ18:9）。

話し合い

神との聖約をより尊ぶにはどうしたらよいでしょうか。「地の塩」となり、周りの人に祝福をもたらすにはどうしたらよいでしょうか。